

定例研究会要旨

日時：平成 30（2018）年 1 月 31 日 18:00～20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

「中期チュルク語翻訳文献とその背景」

‘Middle Turkic translation texts and their background’

発表者：菅原 睦（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語学, 中期チュルク語）

SUGAHARA Mutsumi

発表では、まず中央アジア中期チュルク語への翻訳活動の概観として、クルアーンの間訳や、散文テキスト中に見られる、クルアーンからの引用に付された翻訳、さらに 14・15 世紀に属する、ペルシア語作品を原作とする翻訳文献の主要なものを紹介した。ついでクトゥブによる『フスラウとシーリーン』から翻訳元原文との対照の具体的な実例を示した。

これらの中期チュルク語翻訳文献に関しては、翻訳元テキストとの対照に基づく研究がこれまで充分に行なわれていないが、テキスト本文の確定や正しい解釈のためには原作との詳しい対照が不可欠であるばかりでなく、中期チュルク語の補助動詞の用法に関しても、翻訳文献の活用による新たな分析が可能であることを指摘した。また、翻訳文献がつくられた背景を、当時のその社会のリテラシー状況と結びつけて考察することの必要性にも言及した。